

情熱とつながりの台湾1周

安部 良

はじめに

日本が未曾有の危機に陥った東日本大震災は、日本人にとって衝撃を受けるもので、ひとりひとりが何をするのか？何をできるのか？が問われました。同時に、世界中からの本当に温かい支援やエールは、「これだけ日本の事を思ってくれているのか」と日本人として、心温まるものでした。命の尊さや人の暖かさを感じた、ひとりの日本人ができることとして、直接『ありがとうを伝えたい』と、僕は自転車でメッセージをつけて走ることにしました。4月下旬から1か月かけて世界最大の日本のサポーター「台湾」を1周。

日本人の感謝を伝えることを目的とした旅は、普通ではありえない出会い・つながり・サポートによって完成されました。その特別な台湾1周の様子をお伝えしたいと思います。

この自転車でメッセージを伝える旅は、今年の震災後から始まり、北米大陸カナダ横断8000KM、ニュージーランド南北両島1周4000KMと走って、台湾が3か国目になります。2011年5月27日、それまで自転車の旅の経験はおろか、パンクの修理、キャンプもしたことなく、自分でテントを張ったこともない者が、誰も知り合いのいないカナダへ。国旗とTHANK YOUのメッセージのサインボードを日本から持参し、大西洋の港町ハリファックスへ。太平洋の町ビクトリアまで、4ヶ月8000KMを走破。2012年に入り、東日本大震災の前にクライストチャーチで大地震があったニュージーランドを、震災から共に立ち上がろうとメッセージをつけて南北両島1周4000KMを走りました。そして、4月25日から台湾を1周の感謝の旅が始まりました。



カナディアンロッキーを越えた時

僕の3.11

3月11日午後2時46分は、さいたま市の病院にいました。末期がんの友人の最期のお別れに訪ねたため、もう1週間もたないと連絡を受け駆けつけていました。

体はガリガリ、声はほとんど出せず、目はうつろ。意識はあるようだけど、意思表示もすぐできないような状態。でもあの揺れがきたときは違いました。

地震慣れしている日本人だと、だいたい地震が収まるタイミングがわかりますが、なかなか収まらない地震。揺れはじめは、病院の外で工事している影響だと話していたものの、次第に地震と気づき、さらに「やばい」と病院のスタッフも慌てはじめ、悲鳴も聞こえました。そんな状況に、友人はベッドからむくっと起き上がり病室にいた奥様やお母様方に「逃げるぞ!」と強い口調で一言。病室のあった2階から、階段を肩を組んで避難。フットサルチームのキャプテンで、一緒にスキーにいった事もありスポーツ好きで元気な人でしたが、1年半前にガン摘出手

術をしてからあつという間でした。奥さんと3人のお子さん、経営している会社や新築の家などを残し、41歳の若さで亡くなりました。肩を組んだときに何か託された気持ちになりました。

一方、震災後東日本は大混乱。テレビは1週間緊急番組。仙台空港に津波が襲われる上空からの映像、真っ黒な波が防波堤をこえて町を呑み込んでいく様子を映し出すテレビ、日に日に不安が募っていく福島原発の原発。

異常な回数の余震、電力不足と放射能で東京も混乱。さいたま市南区でも何度も計画停電が実施されました。義援金を出したり、幼い子供がいる友人へ水を送ったりしながらも、30歳という人生の区切りを目前に控え、無力感で、悶々とした時間を過ごし、体調も優れませんでした。「日本がこんなことになっているのに、自分は日本のために何もできないのか・・・」

残された者として何をすべきだろうか。気持ちを整理して、前を向かなくては。亡くなった友人や震災で犠牲になった人たちが、今なにを言うだろうか？

「おまえのやりたいこと、まっすぐやれ」

「後の日本を頼んだよ」

『二度ない人生、悔いのないように生きたい』と思っていながらも、なかなかチャレンジせず楽なほう楽なほうと現状に流されてしまっている事が多い自分。

死ぬまでにやりたいことにチャレンジしようと、自転車で大陸横断を決断。同時に、その横断を通して日本人として震災へのサポートへ感謝を伝えよう。そしてカナダへ向かう飛行機に乗り、ぶっつけ本番で北米大陸横断へ向かっていったというわけです。

台湾1周の概要

台湾1周は

期間：4月25日（台北着）から5月25日（台北発）

距離：1200KMを想定

行程：台北から東周りで1周（宜蘭→台東→高雄→台中→台北）

目的：日本人の気持ち「ありがとう」を伝えること

今なおある台湾からエールのメッセージを被災地域へ届けること

用意：缶バッジ、名刺、国旗、サインボード

自転車で走り、台湾の人たちと交流しながら、台湾島19の市・縣を訪問し市長・縣長様はじめ地域の代表する方に、東日本大震災で特に被害が大きかった6県と、太平洋沿岸部54市町村へエールのメッセージをポストカードに書いていただく。ポストカードの各19地域のデザインのものを使用。

カナダ・ニュージーランドを走り、日本人としての応援して下さる場面がたくさんありました。それをその場止まりにせず、肝心の日本へ伝えたいと、ポストカードにメッセージを書いていただいて、日本へ送ることにしました。



永本冬森さんのデザインの缶バッジ。永本さんはカナダで有名なアーティストで、僕の旅にアイデアやデザインを提供してくださっています。

着いた直後の台北は雨ばかり

4月25日

NH1187便で松山空港に到着。天候は雨。空港のロビーのドアから出たとたん、もわっとする”THE 蒸し暑い”感じ。台北101も見えて、「台湾にきたな〜」と気持ち。そしてこの瞬間から自転車に乗っていなくても感謝の旅です。予約した台北駅前の安宿まで松山空港からタクシーで向かいます。この時の運転手さんと台湾ではじめてのコミュニケーション。「感謝を伝えたくて台湾に来ました、ありがとうございます」と缶バッチを渡しました。英語も通じない方でしたが、漢字で筆談。

雨もやみかけてきたところで、早いうちに台湾に慣れたいので、夜は、駅の周辺から西門街のあたりまで歩きました。

4月26日

天気はまた雨。この日は、自転車を組み立てて、携帯電話のレンタル、両替など、本格的にはじめる準備と、交流協会台北事務所へご挨拶。領事室のM室長と文化室Yさんにお会いしました。交流協会の皆さんと接点が生まれた理由は3つあります。1つ目は、カナダ横断した際にお世話になったバンクーバー総領事館のI領事が、今回の感謝の旅について台北事務所へ連絡をしてくださった事。2つ目、交流協会のホームページで、この旅の内容を告知してくださった事。3つ目台湾1周で訪問したい各市・県へ首長様宛に面会依頼をしたうち、宜蘭縣からのお返事が交流協会台北事務所へ届いていた事。

この時、M室長からうかがった、1999年台湾大地震の際の日本の救援隊と台中日本人学校のエピソードは、この旅のハイライトのひとつになっていきます。Yさんは、宜蘭縣からの連絡を受けて下さった方。このあと旅の間さまざま形でサポー

トして下さいました。

まずは慣れるために

4月27日

この台湾1周は目的をもった旅で、普通の自転車で走ることに時間を割かなくてはいけないし、各地で準備しなくてはいけないものも出てきます。そのためには早く自転車で移動することに慣れたい。到着3日目から自転車での移動開始。基隆市まで約30KM。天候は雨、、日本を発つ前に調べた天気予報通り。でもカナダ横断・ニュージーランド1周で、豪雨の中峠越え、雷に遭遇などを経験済み。しとしとふっている分には大丈夫。準備もしてあります。雨では、靴が濡れちゃうのが一番きつい。そこで足が汚れるのは諦めて雨でも走れるように履きやすいサンダルでサイクリング。このサンダル、ユニクロで990円で買って来たものですが、雨の日でなくても、街を歩くときにもサンダルは活躍しました。

基隆市までの道のりは、旅の試金石になると思っていました。自転車のメッセージにどれだけ気づいてくれて、どんな反応があるのだろうか。台湾はすごい反応だろうと勝手に想像はしているけど、そのすごさはやってみないとわからない。

案の定、嬉しい反応が続々とおきます。中でも印象的なものを2つ。まずは、大同路一段COSTCOすぎたところ。後ろからきた車が減速しにこにこしながら「加油!!!」と声をかけられ、袋が差し出されました。車には家族連れ3人が乗っていて、袋の中身は、なんと豚カツ弁当。しかも熱々。先でUターンし、反対車線を走っていきました。自転車を見てわざわざ追いかけてくれたのです。



骨付きのとんかつは初めてでした

その次は、新台五路一段で信号待ちのところに、「写真いいですか？」と、かたことの日本語で若者から声を。彼らはスマートフォンで写真を撮っていたので、缶バッチと一緒に名刺も渡します。その日の夜に、フェイスブックページに写真を投稿してきてくれました。



FBに投稿してくれた写真

雨にも関わらず、こうした反応があるのは嬉しくて「台湾にきてよかったあ〜」これから楽しみもやる気が倍増しました。

4月28日

基隆市では2泊。有名な廟口夜市へいたり、WIFIが使えるように手配し、街中で使えるお店での動作確認、訪問先の旅の細かいスケジュールの調整。これからの予行演習と台湾の雰囲気になれる時間にあてました。(基隆市は、市政府訪問のために、もう一度くることになります。)

4月29日

初訪問になる宜蘭縣へ向かうのに、基隆を出発、礁溪温泉まで。海岸線沿いの道を走ります。この日は、日曜ということもあり、車から声をかけられ、写真を撮られたり、缶バッチもその日分として用意していた30個のほとんどなくなるような状態。

海岸線沿いには漁村がところどころにあり、そこにもコンビニがありました。それでかなりの安心感が得られました。カナダだと100KM補給するお店はおろか、日陰もないようなところもあったり、ニュージーランドではカナダほどではないけど数十キロ何もなかったところもありました。コンビニはほとんどなく、ガソリンスタンドの売店程度。



魯肉飯は台湾中で食べましたが、礁溪温泉で食べた魯肉飯が一番おいしかったです

礁溪温泉までで、ほぼ台湾の自転車の旅に慣れる。自転車で一日で80KM程度走り、雨も体験。3つの街へ行き、食べる場所、宿などの探し方。

そしていよいよ。自治体政府を訪問が始まります。

初訪問

4月30日

宜蘭の街に着いたら安心しました。東海岸は田舎で、人も少ないのではないかと。街中でも必要な情報やお店を探ることができないかもしれない、と不安がありましたが、十分すぎる大きさと安心。「ここでこれだけの街なら、ここから先（花蓮や台東）も大丈夫だ」とほっとしました。

そして台湾の自治体訪問、初めての場所、宜蘭縣政府。この日は、自分の誕生日。これから始めるぞ！と気持ちが自然と湧いていました。政府へ到着したら、新聞科彭さんが日本人建築家が設計した縣政府の建物を案内して下さいました。昨年9月遠泳で台湾へ感謝を伝えに来た人たちが、泳ぎ着いたのが宜蘭縣。さまざま日本との縁について教えていただきました。

陳秘書長にメッセージを書いていたのは、政府内の郵便局でそのまますぐに投函。このポストカードにメッセージを書いていただくことは、初めてで慣れていませんでしたが、これが台湾の声として少しでも被災地へ届けばと強い思いをもってやろうとしていることの始まりで、少し落ち着かない気持ちでそわそわして投函しました。

断崖とのどかな花蓮から台東まで

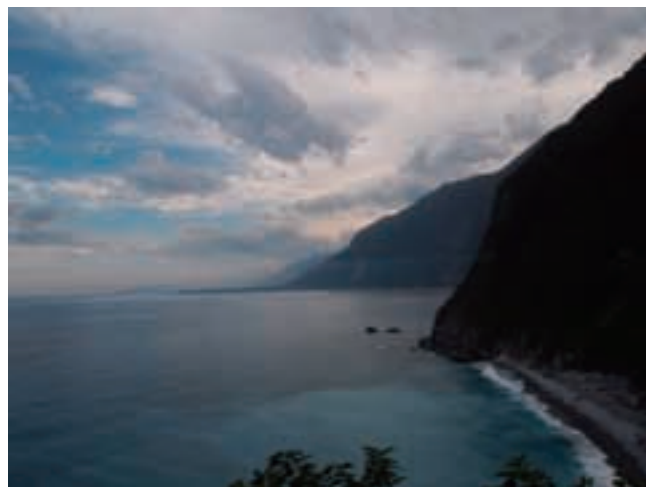
5月1日

花蓮市までは、海沿いの断崖を走ります。アップダウンが多くて比較的大変なところでした。登



陳秘書長にお会いした時は結構緊張していましたが、これから台湾で有意義な時間になるだろうと予感を持った時間だったのをよく覚えています

り坂を晴れて蒸し暑い中でしたが、ここでも道中ペットボトルで水を下さる方がいて、出会いと景色を楽しみながら走りました。雨がたくさん降るとがけ崩れなどの恐れもありましたが、それはなし。道は狭く、トラックやバスなど大型車も結構走るところで、くねくね道で先が見えづらいので自転車は気をつけないといけない区間。しかもトンネルが多い。トンネルは暗く、いくら旗を立てて目立つ自転車でも、暗かったら見えません。注意していました。



絶壁の清水断崖

ここを走り台湾の坂道の特徴を感じました。それは、登りはじめたら上りっぱなし、下り始めた

ら下りはなし。通常、長い坂道にはところどころ少し勾配が緩るく平坦なところがあります。一瞬そこでペダル漕ぐ力が楽になり息をついて、またのぼる。でも今回台湾で1周走った長い坂道で、そういった一瞬の平坦な場所はほぼありませんでした。自転車で走って見ないとわかりづらいことですが、道を作り方、道を通す環境の違いを感じました。

5月2日

花蓮でお会いできたのは、縣府観光暨公共事務處長 蘇處長。結構英語でお話できたのですが、連絡を取り合っていた縣政府の観光処の馳さんが日本が上手で、ところどころ訳してもらいながら面会。

この日は、縣長様が台北に出張されていて、午後台北までポストカードをもっていったうえ、文面を考えて、蘇處長が代わって書いてくださいました。こうした経緯も含めて丁寧に対応くださった馳さん。「ミッション達成しましたよ」とのメールを読んだときには、一緒にこの台湾1周をしている気持ちになりました。青森から千葉までの6県の県知事様宛てられたメッセージ。台湾からの気持ちは届いているだろうと思います。

それから瑞穂まで走ります。瑞穂は今回の旅でとまったところとしては、一番田舎でした。花蓮からの道のりは、山と山の間で農村地域、のどかなところを走っていきました。この日は雲行きが怪しく、いつ雨が降ってもおかしくないと感じていたけれども、幸い瑞穂に到着するまで雨は降らず。駅のすぐそばに宿をとった瑞穂では、日本語が少し通じるおばちゃんが出て、こんなところでも日本語わかる人がいるんだ」と、台湾は日本語通じるという噂が本当なのだと感じました。

5月3日

日本人を感謝の気持ちを示すための旅でもありますが、地球を感じたいと大陸横断を試みています。カナダではスペリオル湖の北側を6日間かけて走ったり、大平原を1000KM近くも走ったり、ロッキー山脈を越えたり、ニュージーランドでは南十字星をみたり、日本に居てはできない事をやってみたい。

北回帰線のモニュメントでは、「ここより南は熱帯地域になるんだ」と、台湾は雰囲気は日本に似ているところが多く、アウェイな気持ちもさほどありませんでしたが、熱帯突入というのは、日本じゃないんだと改めて思いました。さらに台湾は、頭の上から陽に照らされる。回帰線通過は、その感じが目に見えて分かる場所でした。



北回帰線通過

花蓮の観光処の馳さんが、世界的にも評価の高い珈琲が名産です！と強く推されていたので、瑞穂にある舞鶴珈琲園でひととき入れました。といっても瑞穂から1時間もしないところにあり、北回帰線からすぐのところ。曇っていて眺めはよくなかったのですが、カフェ好きなものとしては気持ちのいい場所でした。

珈琲農園もたくさんありカフェも併設されているところもありました。小高い山を越えていくので、晴れていれば景色は最高だと思います。この



晴れていれば素晴らしい眺望だろうテラス

花蓮から台東までの山の中を走った地域は、日本でも山間の農村に似ている（長野県安曇野や大町あたりなど）と感じました。ニュージーランドだここに牛や羊、とうもろこし畑にあたるのでしょうか。こうゆう里山の雰囲気大好きです。

5月4日

午前中、台東縣政府を訪問しました。実は翌日午後の音楽鑑賞会にお誘いいただいていたのですが、無理を言って1日早く訪問。邱参議にお会いしお話をさせていただきました。メッセージをお願いしたところ「県知事宛ならこちらも縣長が書かなくては」と。ポストカードを託しました。花蓮と同様黃縣長メッセージを書いている様子を、社會處 朱副處長が送っていただきました。

ここまで来て宜蘭、花蓮、台東とどこでも台湾のみなさんの温かい対応。本当に嬉しくて、ありがたくて。。

この日は移動せず午後スターバックスで過ごしていた時、この1週間を振り返りながらひとりでこみ上げてくる熱いものを抑えていたのを覚えています。



邱参議・朱社會處副處長

最南端から北上を開始

5月5日

この日は台東から墾丁まで。登りが一番長かったと思います。台東から本格的な山越えになるまでに60KMぐらい走ったうえでの、峠道。峠は屏東縣との境で、小雨が降っていて、景色はあんまりでしたが、かんかん照りの中、峠越えるよりも楽でした。下るのにつれて晴れていきます。

墾丁につくまでの道のりでは、サイクリングしている人たちにたくさん会います。みんな僕みたいに荷物を積んでいないから速いので、抜かされるたびに声をかけてくださり、山越えと暑さの消耗も忘れて楽しく走っていました。墾丁に着いたのは土曜日ということもあり、ものすごい人でした。なんじゃ！ここは！と思いました。原宿の竹下通りか！と思うような人ばかり。車道は、車が走れるような状況ではなく。同時にホテルも週末料金で高くなっていて、食べる場所も他の地域よりも高め。肉絲炒飯が70元（だいたい場所なら60元）

ここでカレーっぽいものを食べました。周りみんな食べていたので、僕も真似したんですけど、ぜんぜんおしくなかったですね。味が薄くて、こくやうまみもあんまりなくて、「えっ、なにこれ？」って。



カレーっぽいのはこれ

5月6日

昨晚のにぎわいはどこへいったかという朝の墾丁。道も車がすいすい走れるようなところ。自転車で走っていると、「こんなところまで自転車で行ったんだ」とわかる写真を撮りたくて、珍しいところや名所に行ってみたいと思っています。台湾最南端はそのひとつです。すぐそばの灯台は公園で、大きな駐車場もありバスが停められて観光客がたくさんいましたが、最南端は少しわかりづらいところにあります。実は最南端までいけるようになっていると標識も碑があるだけ。ガイドブックを持っていませんし、言葉ができないから道を細かく聞くこともできないけど、探してたら



最南端はモニュメントしかない小さなところ

小さな標識を発見。ジャングルの中の遊歩道を抜け最南端の碑へ。台湾の南細長い先端に来たんだなとちょっと感慨深い。見える景色は、生い茂った木々と海との景色ですが、晴れていて海もきれいできもちよかったです。



墾丁には原発もあります。それはビーチに近いのなんのという距離。福島原発事故があった日本人として、地球にいる一人として、きれいな景色が長い間続くことを祈ります

この日は日曜で墾丁から高雄方面へ向かう道を走り、週末を楽しんだ人たちの帰宅と重なったので、たくさんの人とふれあうことができ、夜フェイスブックにはこう書きました。

今日はほんとホントいろんな人に出会い、サポートしてもらった。こんなのありなの？っていうぐらい。台湾最南端であった日本語上手な許さんと友達、ありがとう。大きな水のペットボトルをくれた二人組ありがとう。パンクしながら追いかけてくれてジュースをご馳走してくれたおじさんありがとう。その時車からきてくれた英語を話せたカップルありがとう。4人で車に乗っていて、セブンイレブンのサラダをくれた人ありがとう。家族連れで大きい冷たいジュースをくれた人ありがとう。車2台で男女8人で声をかけてくれたグループ、缶バッチが2個しか渡せなくてごめんなさい。トラックを停めてこれまたジュースを下さったご夫婦、飲み終えていたその前のカップのゴミまで持って行って下さって、ありがとう。

今日は自転車では持ちきれないくらいの水分でした。

その他、道中わずか100KM程度なのに、本当に本当に多くの声、手を振ってのエール、ありがとうございました。この30度越えて蒸し暑い中、朝食昼飯無でも100KM順調に走れたし、めちゃくちゃ楽しいサイクリングでした。すべてみなさんのおかげです。感謝しています、ありがとうございます。無事、屏東市に着きました。誠に謝謝!!謝謝!!

濃密な出会いが連鎖していく

5月7日

屏東縣の曹縣長が会って下さった時間は、月曜日の朝の8時半。週の仕事を始まる大事な時間に、こうして会って下さるに本当に感激。お話では、2009年88水害の際静岡から届いて義援金の目録や、日本人作家に屏東で小説をかいてもらう企画の話など、日本との縁の深さも教えて下さり、被災地へのメッセージも非常に丁寧に書いてくださいました。日本へ訪問する予定があるらしく、メッセージの宛先を改めて確認の連絡をいただき、このポストカードを大切に下さってるだと強く感じました。



屏東縣の曹縣長

屏東から高雄まで向かう最中、長い橋を渡り、高雄へ入っていきしばらくしたところで、一人の青年に声をかけられます。話聞くと、震災後に女川へボランティアに行ったと・・・、

僕はボランティアに行く勇気もなかったし、行っても大したことはできないと思ってしまっていました。すごいですね。台湾からわざわざ行くのであれば、日帰りなどではなく数日間滞在し活動したはずですよ。そこまでしてくれる方がいることに感動しました。女川の人たちも、チカラになったと思います。



女川へボランティアに行った青年

高雄では交流協会の高雄事務所にお邪魔し、野中所長へご挨拶。震災後の台湾の人たちが、ことあるごとに家族や友人は大丈夫なのかとそれが半年ぐらい続いたと伺いました。日本の震災の事は時間が経つにつれて忘れられ、もうとっくに復興しているものだと思っている人もいます。台湾の日本への関心度がいかに高いのか、伺い知る事ができました。



野中所長との写真

野中所長には、日系商社のSさんと、写真家でベストセラー作家の有川真由美さんと一緒にさせていただく場を作っていただきました。この時のお話がとても有意義でした。海外旅行へ行かれると、改めて「日本」が見えてくる体験される方は多いと思います。僕の日丸立てた自転車で走りながら、感じる事はたくさんあります。なんとなく感じて居ることもあり、はっきりつかみきれていない事もある。

海外経験の長い3人のお話は、「台湾に対する」なるほど」と合点がいくことがたくさんあったし、自分の中のなんとなくをはっきり見つけることがたくさんできました。そして「日本」に対する思いも強くし、確信も深まった、本当に上質の時間でした。

余談ですが、高雄はとてもきれいな街でした。台北よりもずっと道は広いし、整備されている。台湾らしいところもあり、近代的な建築物もあり、水辺の景色もいい。僕が訪れた台湾の中の最もきれいな街です。有川さんにはバイクで宿まで送っていただいたのですが、この短い時間がめちゃくちゃ楽しかった。自転車とは違うスピード感は新鮮だったし、台湾＝オートバイってイメージもあるんで、台湾を体感しているような感じでした。

5月8日

高雄市では、秘書處国際事務科 A科長にお会いしました。すごくにこやかで穏やかな方。ポストカードも真剣に考え、そのお人柄伝わります。この部署で働いている方は、いい雰囲気を感じました。



A科長の写真

ここで通訳にしてくださった、陳さん。高雄市は東京都八王子市と姉妹都市ですが、陳さんは姉妹都市になる前から、八王子の大学へ留学していた、このお仕事に就くのが必然だったような方。人の縁であるものですね。

A科長の机の上には、僕が送った手紙がありました。今回、19の自治体訪問するにあたり日本からその気持ちを手紙にし、各縣と市長さま宛に送りました。手紙は日本語と北京語です。知り合いも誰もいない台湾でいきなり各地域の要人に面会を依頼するのに、気持ちをお伝えすべく北京語ができる人を頼って、訳してもらったのです。

その一人に、カナダ横断した時に会った友人がいます。約20年前彼は、世界1周し最後に台湾まで来たのですが、日本へ帰るお金がなく途方にくれていました。見ず知らずの人がその話をきき、日本までの飛行機代を出してくれることになります。日本でアルバイトし、再び台湾へ返しにいくと、

「要らないよ。」

「それでも返したい。」

「そしたら今から有給休暇を申請してくるから、このお金を使って台湾を周ろう」

と、二人で台湾を1周したそうです。

そんな経験から今、バンクーバーとロッキー山脈の間の大自然の中で素敵な B&B を夫婦で営んでいます。その話を聞いたときから、台湾の人た

ちは暖かい人たちがばかりだと思っていました。

こうして台湾を走っているようで、これまで出会った人たちに支えられて、つながりによって走れています。まさに旅は人生の縮図です。こんなつながりに台湾でも助けられます。それがはっきりするのが高雄から先。

その様子は次回に。

安部 良 (あんべ りょう)

1981年埼玉県生まれ 成蹊大学卒業

金融先物取引、新宿伊勢丹、損保ジャパンで営業や接客を経験。

2011年東日本大震災後、日本人として「顔の見えるカタチで、世界に感謝を伝えたい」と単独自転車の旅は行く先々で感動と共感をよんでいる。はじめて1年、走行距離は13000KM以上に及ぶ。

マラソンが趣味のひとつで現在7回完走している。

<http://www.ryoambe.com/>